

基準9 財務基盤及び管理運営			
	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
平成25年度			○ 閲覧可能な監査報告書は、監事の活動の結果を網羅するものではない。（室蘭工）
	○ 人事院、国立大学協会、東北地区国立大学法人等が主催する研修やセミナー等に、多数の事務系及び技術系職員を参加させて、資質向上に努めている。（弘前） ◎ 職員のキャリアアップの取組として、平成16～24年度に延べ16人の技術系職員が大学院修士課程を修了し、修士（理工学）又は修士（保健学）の学位を取得している。（弘前）		
	○ 「中期計画・年度計画進捗状況共有システム（プロナビ）」を運用し、根拠となるデータ等を入力・蓄積しながら継続的な自己点検・評価を展開している。（岩手）		
	◎ 東日本大震災を受けて、様々な規定等を整備し、災害・危機事象に対応するための施策を練り、特に、非常時に備え、衛星電話や自家発電機等の整備、防災備蓄倉庫の建設、非常用物品等の備蓄を実施している。（秋田）		
	◎ 毎年、部局の組織評価を実施し、3区分によるランク付けを行い、区分によってインセンティブ経費を傾斜配分している。（山形）		
	◎ 中期目標期間3年終了時及び6年終了後に組織評価を実施し、評価の高い部局には経費配分等の優遇措置を行い、改善が必要な部局には改善指示を行うこととしている。（岐阜）		
			◎ 平成25年度実施の大学機関別認証評価に向けた自己評価書において、根拠資料のほとんどが別添資料とされ、自己評価書本文中に記載されておらず、大学の教育研究活動の状況を明らかにし、社会に判りやすく示すものとして適切とはいえない。（京都）
	◎ 職員の自己啓発と意欲喚起等を目的とする職員資格取得表彰制度を創設している。（大阪教育）		
	◎ 評価委員にステークホルダーである現役学生及び卒業生を含め、大学の総合的な状況について外部評価を実施している。（和歌山）		
	○ 各コース等及び各教員の自己点検評価の実施に当たって、学長が毎年10月に「次年度に係る重点目標」を設定し、各コース等及び各教員は、これに対する目標・計画を設定するとともに、「教育・学生生活支援」、「研究」、「大学運営」、「附属学校・社会との連携、国際交流等」、「大学への総合的貢献」の5つ活動分野ごとの目標・計画を設定して、当該年度の活動及び自己点検評価に取り組んでいる。（鳴門教育）		
平成26年度	◎ 国際交流業務に対応するため、英語能力に応じた語学研修を実施している。（北陸先端）		
	◎ 他機関への派遣研修として、法人採用の職員を2年間派遣するなど、職員の資質向上に努めている。（奈良県立医科）		
	◎ 平成25年度の大学機関別認証評価に向けて作成された自己評価書において、自己評価を適切に実施し、大学として更なる向上に向けて取り組む課題を的確に把握している。（沖縄県立看護）		
	◎ 福島大学人材養成基本方針を策定し、人材養成を実施する体制を整えている。（福島） ◎ 事務職員のグローバル化対応の取組として、実務研修を含む海外研修を実施し、また、新採用事務職員の英会話研修受講を必須とするなど、事務職員の国際化対応のための研修の充実を図っている。さらに、教育改革の実施に向けて、海外大学の優れた事例を学んでとり入れるため、海外の大学等に、教職員41人（うち事務職員9人）を派遣し調査や意見交換を行っている。（東京工業）		
	○ 安心・安全の科学研究教育センターの教員が専門的見地から助言を行うアドバイザースタッフとして配置され、毎年、危機管理対策の検討や図上訓練を行うなど、危機管理体制が整備されている。（横浜国立） ◎ 管理運営に関わる職員の資質の向上を図るため、研修等カリキュラム・マップが作成され、全般的な知識や職種別の知識向上のための研修が体系的に計画・実施されている。（横浜国立）		
	○ 医学教育のグローバル化に対応して、医学部医学科では、国際基準に基づく医学教育分野別認証の外部評価トライアルを日本で最初に受審している。（新潟） ○ 認証評価に向けて作成された自己評価書において、本文中に全学の状況について概略が分かりやすく記述され、また、改善を要する点などが的確に抽出されるなど、適切な分析がなされている。（新潟）		
	○ 詳細な評価基準等を定め、毎年度、大学の活動の総合的な状況について自己点検評価を組織的に実施し、その結果を基礎資料とともに年次報告書として公表している。（上越教育）		

基準9 財務基盤及び管理運営			
	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
	○ 緊急地震速報システムや安否確認システムを導入し、大規模災害の発生にも備えるとともに、非常用自家発電設備や地下水浄化システム等の整備を行い、地域全体を視野に入れた防災計画を進めている。（愛知教育） ○ 外部評価の実施にあたっては、書面による事前調査を実施した上で外部評価委員会を開催するなど、実効性のある外部評価となるよう実施方法を工夫している。（愛知教育）	○ 教育改善への学生参画制度の有効な活用が期待される。（愛知教育）	
	◎ 環境マネジメントシステムについて、平成24年9月にISO14001認証に伴うサーベイランス（継続審査）が行われ、認証の継続が承認されている。（三重）		
			○ 関連部署や委員会の連携が不十分であったため、軽微ならざる支出超過となった時期があり、財務及び監査の機能強化が望まれる。（京都工芸繊維）
			○ 会計監査について、監事監査と内部監査が共同実施されているが、それぞれの監査目的により監査内容の区分を見直す必要がある。（鳥取）
	◎ 「事務職員のミッション」を掲げ、人材育成として職階別にキャリアアップと求められる能力を整理し、職階別研修を実施するとともに、分野別研修を計画的に実施している。また、平成24年度から始まった自己研鑽型能力開発の取組「岡山大学若手職員塾」が先進的な活動を展開している。（岡山）		○ 監事監査と内部監査が共同実施されており、業務監査報告書も合同で作成されているが、それぞれの監査目的により監査内容の区分を見直し、内部監査の独立性の担保に配慮する必要がある。（岡山）
			◎ 平成26年度の大学機関別認証評価のために作成、提出された自己評価書は、大学の総合的な状況を社会に対して分かりやすく説明するものとはなっていない。（九州）
	◎ 監事監査においては、学部・研究科等を訪問しての監査及び全理事との個別面談の実施等、精力的な監査を実施しており、その結果に基づく監事の意見は、大学ガバナンス体制等をはじめ教育研究や部局運営等に及んでおり、当該大学の運営全般の改善等に大いに寄与している。（長崎）		
	◎ 学長と学部学生との懇談会で寄せられた意見や要望に対する対応については、大学ウェブサイトで公表している。公表時には、意見や要望への対応状況について掲載している旨の一斉メールを学生に送信し、周知を図っている。（鹿児島）		○ 学部、研究科における教育研究活動の状況が、大学全体として必ずしも共有されているとはいえない。（鹿児島） ◎ 平成26年度の大学機関別認証評価のために作成、提出された自己評価書は、大学の総合的な状況を社会に対して分かりやすく説明するものとはなっていない。（鹿児島）
			◎ 平成26年度の大学機関別認証評価のために作成、提出された自己評価書は、大学の総合的な状況を社会に対して分かりやすく説明するものとはなっていない。（鹿屋体育）
	◎ 平成26年度の大学機関別認証評価に向けて作成された自己評価書において、自己評価を適切に実施し、問題点を的確に把握しており、自己評価書そのものについても、社会に対して理解されやすい形となるよう配慮されている。（大妻女子）		
平成27年度	◎ 大学評価室が中心となって、教育、研究、社会貢献等の計8項目の中から2年ごとに評価項目を設定して、当該大学の活動の総合的な状況について、自己点検・評価を実施するとともに、翌年度には、その結果について外部評価を実施している。（北海道教育）		
	◎ 英会話実務研修等の学内研修や海外インターンシップを実施し、また各種学外研修の参加者が学内SD研修で報告を行う等、多様な方法により職員の資質向上のための取組を積極的に進めている。（茨城）		
	○ 学長ティータイムを毎月1回程度の頻度で開催していることをはじめ、女性職員と学長との意見交換、学長と若手職員の懇談会等、学長と学生及び教職員が直接対話できる機会を設け、構成員の意見やニーズを把握し、その反映に努めている。（宇都宮）		
	○ 教職員の業務改革提案やアンケートの意見等に基づき、様々な業務改革・改善が図られている。（東京）		
	◎ 大学の活動の総合的な状況について自己点検・評価を適切に実施し、問題点を的確に把握している。（福井）		
		◎ 非常勤職員の業務遂行上の基礎知識や接遇スキルの向上を目的に、平成26年度からパート職員等研修を実施しており、今後の教育研究業務を支援する幅広い人材の養成が期待される。（静岡）	◎ 評価会議は部局等の自己評価の取りまとめの役割は果たしているものの、全学レベルの自己評価を行っているとはいえず、各部局等の自己点検・評価、改善への取組と全学的対応との関連付けが不十分である。（静岡） ◎ 平成27年度の大学機関別認証評価のために作成、提出された自己評価書は、大学の総合的な状況を社会に対して分かりやすく説明するものとはなっていない。（静岡）
	◎ 毎年度、自己点検・評価報告会を実施し、学生に加え、経営協議会委員、同窓会、後援会等の外部からの意見も直接聴取し、大学運営等の改善に反映している。（滋賀）		

基準9 財務基盤及び管理運営			
	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
	◎ 事務職員に対する目的別研修の積極的な実施が、成果として各種の公的な資格取得につながっている。（大阪） ◎ 認証評価に向けて作成された自己評価書において、本文中に全学の状況について概略が分かりやすく記述され、また、改善を要する点等が的確に抽出されるなど、適切な分析がなされている。（大阪）		
	○ 資格取得チャレンジ制度を設け、一般職員が各自の職務に有用な資格等を取得するための講習会受講料、資格試験受験料等を支援している。（島根） ◎ 重点戦略「グローバルな視点を持った人材を育成する」ために、海外協定校への教職員派遣研修を実施している。（島根） ◎ 評価室の下に置かれた認証評価専門部会が自己点検・評価を適切に実施し、大学として更なる改善に向けて必要な事項を把握している。（島根）		
	◎ 大学独自のものとして、教育に関する外部評価、研究・社会貢献に関する外部評価を実施しており、これらの評価はそれぞれ外部評価報告書として取りまとめられ、ウェブサイトにも掲載され、学内外へ公表している。また、当該大学に11 ある重点研究センターにおいても、それぞれに外部評価委員会を設置し、外部評価を実施している。（九州工業）		
	◎ ステークホルダー・ミーティングや、大分県と大分大学との政策意見交換会等から学外者の意見を積極的に聴取し、改善に活かしている。（大分）		
	◎ 事務職員が海外の大学で講義、調査及び討論等を経験することにより、国際的な素養、総合的な企画力を向上させる海外SD研修を行い、グローバル化及び職務の高度専門化に対応した職員の育成に積極的に取り組んでいる。（奈良先端科学技術大学院）		
	○ 事務系職員の「人材育成の基本方針」「人材育成体系」「取組の方向」について示した「人材育成プラン」を平成22年度に策定し、計画的な人材育成とモチベーションの向上に結び付いている。（横浜国立）		
	○ 「職員の人材育成プラン～大阪国立大学モデル～」を策定し、専門的事務職員の育成と能力向上に組織的に取り組んでいる。（大阪国立） ◎ 大学の活動に関する自己点検・評価及びそのフィードバックに関して、速効性、実効性のある改善のための体制が機能している。（大阪国立）		
	○ 事務局体制強化のための組織改正や人員配置の見直しを行うとともに、目指すべき職員像や研修の基本方針を定めて、計画的な研修実施や大学法人採用の職員（プロパー職員）の指導の強化を行うなど、事務職員の人材育成を推進している。（北九州市立） ○ 事務職員が教員と共同で活動する場を設け、若手職員が大学の将来ビジョンや広報戦略について検討する取組を進めるなど、第2期中期計画に掲げた大学の認知度向上を推進するため、若手教職員でブランディング検討ワーキンググループを設置するなど、積極的な取組を行っている。（北九州市立） ◎ 平成27年度の認証評価へ向けての自己評価書では、根拠資料・データの適切な提示や問題点の的確な把握を行い、質の高い自己評価を行っている。（北九州市立）		
	◎ 教員と事務職員が共に大学の活動について議論する教職員会議を設けており、大学活動全般について全学一体で議論する場所を確保している。（光産業創成大学院）		
平成28年度	○ 学生・キャリア支援活動の基礎資料として活用することを目的として学生等を対象に実施している調査の報告書は興味深く、示唆に富むものである。（お茶の水女子）		
		○ 人材育成の基本方針及び計画に基づき、「階層別研修」、「スキル開発研修」、「出向型研修」、「グローバル人材育成研修」、「規範研修」、「専門研修」の6つに区分した管理・運営に資する研修を実施しており、一層の成果が期待される。（広島）	
	◎ 全学科で自己点検・評価活動を体系的に行い、その結果を複数の外部委員による評価に付すなど、PDCAサイクルの確立に向けた優れた管理運営を行っている。（秋田県立）	◎ 事務職員の資質向上に向け、平成27年度に事務職員の育成についての方針を新たに定め、求める職階別能力、標準的キャリアパス、研修制度等、具体的な人材育成の取組を明確にしており、今後の成果が期待される。（秋田県立）	
	◎ 職員の資質向上のために『人材育成プログラム ～スタッフ・ディベロップメントの体系化と実践的展開～』を策定し、法人職員の戦略的人材育成の指針を明確に定めている。 ◎ 平成22年度の認証評価以降2年ごとに重点項目テーマを設定し、平成28年度認証評価実施を視野に独自の自己点検・評価活動を実施しており、平成23・24年度は「研究」、平成25・26年度には「教育」「国際化」のテーマでそれぞれ自己点検・評価報告書を取りまとめている。（首都大学東京）		
	○ 綿密な実施計画のもとに、自己点検評価の結果を踏まえた外部評価を組織的に実施している。（富山県立）		◎ 危機管理全般に係る学内規程及びマニュアルが整備されていない。（富山県立）

基準9 財務基盤及び管理運営

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
			○ 大学の活動の総合的状況について自己点検評価の方針や体制が組織的に整備されているとはいえない。（石川県立）
	◎ 公立大学政策・評価研究センターによる大学評価ワークショップを受けている。（岡山県立）		
	◎ 福山市では事務局に配置予定の職員を文部科学省に派遣し、高等教育局高等教育企画課及び高等教育局大学振興課で1年間、高等教育行政に関連する多様な業務に従事させ、帰任後、事務局に配置する研修制度を実施している。 ◎ 平成28年度の認証評価に向けた自己評価書では、根拠資料・データの適切な提示や問題点の的確な把握を行い、質の高い自己評価を行っている。 ○ 組織的、定期的に自己点検評価を実施し、それに基づいて基本方針の策定や人事方針の改訂等の改善を進めている。（福山市立）		
	◎ 教職員学生協議会を設けており、学生自治会の代表者と大学の代表者が協議を行うほか、学生寮委員会などの6つの委員会等へ学生を参加させており、学生からの要望を運営に反映させている。（福岡女子）		